

市民健康講座レポート vol.4

講座名：『ここまで進んだ
内視鏡検査・治療』
～もう苦しくない！
胃カメラ・大腸カメラ～

講師：大前 芳男 医師

(川崎幸病院
消化器内科副部長・内視鏡統括医師)

日時：平成23年9月6日(火)
10時30分～11時30分

場所：ミュージア川崎シンフォニーホール4階
『市民交流室』

参加者：満席(定員150名)



講座レポート

●ご参加ありがとうございます

平日にも関わらず、多くの方々にご参加をいただき、今回も会場は満席となりました。11月度講座より、「川崎市産業振興会館」に場所を移し、より多くの方々にご参加いただけるよう、会場を広くしてお待ち申し上げます。



●「わかりやすさ」を心がけて

大腸がん・胃がんは早期発見が大事。「内視鏡検査」についてスライドを用いながら、皆様にできるかぎりわかりやすくお伝えさせていただきました。

●多くのご質問をいただきました

毎回多くのご質問をいただきます。多くの皆様がお悩みや疑問、ご不安を抱えていらっしゃるのかと思います。この講座を通じて、少しでも皆様のご不安を取り除くことができれば幸いです。



■講座レジュメ

●日本人に胃がん・大腸がんが増えています

日本人で胃がん・大腸がんになる方が年々増えています。しかし、日本人の死亡原因第1位のがんは肺がんであり、胃がん・大腸がんの死亡率は決して高くありません。つまり、**胃がん・大腸がんは今では『治せる可能性のあるがん』**なのです。そして治すためには**早期発見が何よりも大事**です。

胃がんも大腸がんも症状があらわれた時にはすでに進行がんです。**早期のがんは無症状**がほとんどです。そのため**症状が無くとも定期的に検査を受け、早期にがんを見つけていく**ことが大切です。

●がんを早期発見するために

胃がんの検査

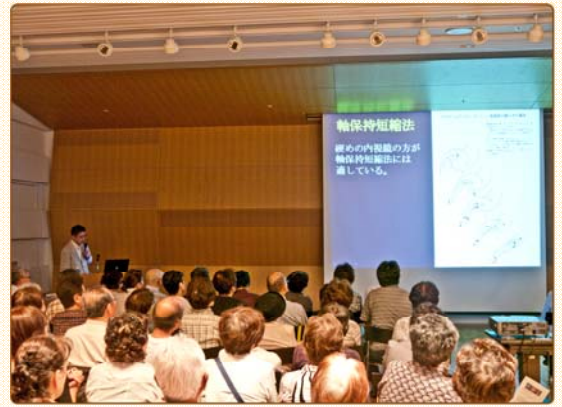
- ・バリウムを飲んでX線撮影
- ・内視鏡(胃カメラ)検査

大腸がんの検査

- ・便潜血検査
- ・注腸検査(おしりからバリウムを入れてX線撮影)
- ・内視鏡(大腸カメラ)検査

胃がん・大腸がんの検査にはいくつかありますが、**がんの発見率が違います**。内視鏡検査は、カメラを通じて直接目で見る検査ですので、**早期がんの発見率は最も高い検査**です。

内視鏡検査は「苦しい」というデメリットも確かにありますが、**がんの早期発見のためには、お勧めしたい検査**です。



●胃カメラ

なぜ苦しいのか？

①咽頭反射

「舌の根」や「のどの後ろの壁」にカメラが当たると、吐き気を起こします。これを咽頭反射といい、この反射の強い人はどうしても吐き気が生じます。

②咳嗽反射

咽頭反射を抑えるために麻酔をします。そのため、唾液を飲み込むと、気管に唾液が入ってしまい、咳き込んでしまいます。

経鼻内視鏡(鼻から入れる内視鏡)の登場

「舌の根」や「のどの後ろの壁」にカメラが当たらず、吐き気を抑えることが可能で、**検査の苦痛を軽減**することができます。しかし、口から入れる内視鏡に比べると、どうしても**画質が落ちます**。つまり、**がんの発見率が落ちます**。

経口内視鏡の方が早期がんの発見には有効です

苦しめないポイント

- 首と肩の力を抜き、鼻から息を吸って口から吐く。
- 唾液は飲まない。唾液は飲まずに口からダラダラ出してしまうと下さい。

我々もできる限り苦痛の少ない内視鏡検査を心がけています。定期的に内視鏡検査を受け、**がんを早期に発見**することが大切です。早期がんは**内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)**という治療法で、手術せず、内視鏡で切り取ることもできます。

●大腸カメラ

なぜ苦しいのか？

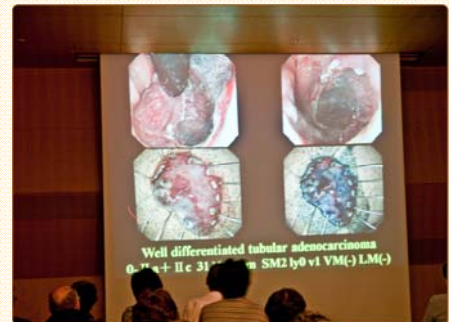
①検査を受ける前に腸内をきれいにするために下剤を1.8~2ℓ飲まなくてはなりません。

②検査するために腸に空気を入れて膨らませる必要があり、検査後におなか(おなか)が張ってしまいます。

当院では、**CO2送気装置**という機械を使って、**炭酸ガス**で腸を膨らませています。炭酸ガスは腸に吸収されやすく、肺からすみやかに排出されるため、おなかの張りをあまり感じません。

③腸の中をカメラが通るときに腸の壁にカメラがあたり、**腸が伸びるために痛み**を感じます。

痛みが少ない挿入法や、技術の修練に務め、苦痛の少ない検査を心がけています。



内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)
がんの下にヒアルロン酸などを注入し、腫瘍を浮かせて、切り取ります。